

3人目のレンガ職人である大切さ！

(楽しんで仕事をするには?)

皆さん、イソップ寓話の「3人のレンガ職人」を知っていますか？
内容は以下のとおりです。

世界中をまわっている旅人が、ある町外れの一本道を歩いていると、一人の男が道の脇で難しい顔をしてレンガを積んでいた。

旅人はその男のそばに立ち止まって、「ここでいったい何をしているのですか？」と尋ねた。

「何^{なに}って、見ればわかるだろう。レンガ積みだよ。朝から晩まで、俺はここでレンガを積まなきゃいけないのさ。あんた達にはわからないだろうけど、暑い日も寒い日も、風の強い日も、一日中レンガ積みさ。腰は痛くなるし、手はこのとおり」男は自らのひび割れた汚れた両手を差し出して見せた。

「なんで、こんなことばかりしなければならないのか、まったくついてないね。もっと気楽にやっている奴らがいっぱいいるというのに・・・」

旅人は、その男に慰めの言葉を残して、歩き続けた。

しばらく行くと、一生懸命レンガを積んでいる別の男に出会った。先ほどの男のように、辛そうには見えなかった。旅人は尋ねた。

「ここでいったい何をしているのですか？」

「俺はね、ここで大きな壁を作っているんだよ。これが俺の仕事でね。」

「大変ですね」旅人はいたわりの言葉をかけた。

「なんてことはないよ。この仕事のおかげで俺は家族を養っていけるんだ。ここでは、家族を養っていく仕事を見つけるのが大変なんだ。俺なんて、ここでこうやって仕事があるから家族全員が食べていくことに困らない。大変だなんていっていたら、バチがあたるよ」

旅人は、男に励ましの言葉を残して、歩き続けた。

さらに歩くと、また別の男が生き活きと楽しそうにレンガを積んでいるのに出くわした。

「ここでいったい何をしているのですか？」

旅人は興味深く尋ねた。

「ああ、俺達のことかい？俺たちは、歴史に残る偉大な大聖堂を造っているんだ！」

「大変ですね」旅人はいたわりの言葉をかけた。

「とんでもない。ここで多くの人が祝福を受け、悲しみを払うんだぜ！素晴らしいだろう！」

旅人は、その男にお礼の言葉を残して、また元気いっぱい歩き続けた。



さて、あなたは何人目のレンガ職人ですか？

それぞれ職人のレンガを積む意識を比べると…

1人目は、レンガ積みがつらくて、不平不満だらけで仕事をしています。この職人には、目的も目標も全くなく、「やらされている」という不平不満の気持ちを強く感じとることができます。

2人目は、レンガ積みで家族を養っていけると喜んで仕事をしています。しかし、目的は「家族を養う」というものであり、仕事に対してではありません。あくまで、レンガ積みという仕事は個人の生活のためであり、レンガ職人であることにはこだわってはならず、賃金が良ければ別の仕事でも良く、「生活がなり立てば仕事は何でもいい」というように感じます。

3人目は、歴史に残る大聖堂をつくることに関わり、「世の中に役立つことが目的」となっています。個人的な目的ではなく、人のため、未来のためになる仕事として「誇り」をもってレンガ積みをしています。そこには、仕事をする上で働く喜び、もっと言えば、生きる喜びが感じられます。

もしかしたら、3人とも上司に言われた目標やノルマはあるのかもしれませんが。しかし長い仕事人生において、言われたからただやるだけなのと自分の見いだした目的や夢に意識を向けて楽しみながら生きるのでは、将来において差は大きいです。

では、このお話にはまだ続きがあることをご存じでしょうか？

さて、3人の10年後です。

1人目は、10年前と同じように文句をいいながらレンガを積んでいました。

2人目は、レンガ積よりお金の良い仕事に就きましたが、危険を伴う教会の屋根の上で仕事をしていました。

3人目は、建築現場の施工管理者として施工を任されるようになり、のちに出来上がった大聖堂には彼の名前が付けられたということです。

それぞれ、やっていることは同じことです。ただ、どんな気持ちで働いているか、仕事に対しての気持ちの持ちようが違うのです。多くの人が、1人目か2人目に当てはまります。しかし、本当に「楽しい働き方」というのは、3人目のレンガ職人の様な考え方が必要となってきます。同じ仕事をするときも、考え方一つで、「幸福度は大きく変わる」と言うことです。

目的と目標

仕事への意識は、「目的」に置き換えられます。そして、その目的がどれだけの人に支持されているかで仕事の大きさが決まります。「目標」は、目的を達成するための過程のことで、具体的な数字や数値です。目的を果たすために目標設定は必要です。順番としては、まずは目的を示すことです。示した目的に夢があり合理的で多くの人に支持されるものであれば、まずは身近な目標を設定し、周囲を巻き込んでワクワクしながら仕事を楽しむと、あなたの仕事は成功します。出世もします。せつかく仕事をするなら、毎日たまらないワクワク感を味わいながら楽しく仕事をしましょう！

難しい顔をしていても、笑っていても時間は同じに流れて行きます。どうせやらねばならない仕事なら、楽しみながら生き活きと楽しそうに仕事

をする方が、何倍も自分の将来や人生にプラスとなるかが理解できると思います。

町民の皆様からの声！

そして、「最近の役場職員は変わって来た」という話を町民のかたより良く言っていただけるようになりました。「職員の生き生きしている姿」を町民の皆様が感じてくださっている。私は大変嬉しく思います。職員皆が自信を持って「3人目のレンガ職人」でいる大切さがわかってきている。そして、町民の皆様にも気持ちよく役場に来ていただいていることに、私は大きな喜び、そしてまだまだ明和町には発展の伸び代があると感じました。私も含めて皆で楽しく汗をかいて素晴らしい明和町をつくりましょう。

**町民の皆様も町の職員も、夢を持ち素晴らしい明和町で
生き活きと楽しく生活しましょう！**

**「選ばれて住み継がれる明和町」へ
good luck !**

令和2年1月24日

明和町長 富塚もとすけ